本大臣は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かって敬意を表します。

二千十六年三月四日にラバトで

モロッコ王国経済・財政大臣

モハメッド・ブーサイド

モロッコ王国駐在

日本国特命全権大使　黒川恒男閣下

○外務省告示第百六号

平成二十八年三月九日にナイロビで、円借款の供与に関する次の書簡の交換がケニア共和国政府との間に行われた。

平成二十八年四月五日

外務大臣　岸田　文雄

（日本側書簡）

（訳文）

書簡をもって啓上いたします。本使は、ケニア共和国の経済の安定及び開発努力を促進するために供与される日本国の借款に関して日本国政府の代表者とケニア共和国政府の代表者との間で最近到達した次の了解を確認する光栄を有します。

1　四百五十六億九千万円（四五、六九〇、〇〇〇、〇〇〇円）の額までの円貨による借款（以下「借款」という。）が、オルカリアV地熱発電開発計画（以下「計画」という。）を実施することを目的として、独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）により、日本国の関係法令に従って、ケニア共和国政府に供与されることになる。

2(1)　借款は、ケニア共和国政府とJICAとの間で締結される借款契約に基づいて使用に供される。借款の条件及び使用に関する手続は、この了解の範囲内で、なかんずく次の原則を含むことになる前記の借款契約によって規律される。

(a)　償還期間は、十年の据置期間の後二十年とする。

(b)　利子率は、年〇・二パーセントとする。

(c)　支出期間は、前記の借款契約の発効の日の後七年とする。

(2)　(1)に規定する借款契約は、JICAが計画の実行可能性（環境に対する配慮を含む。）を確認した後に締結される。

(3)　(1)(c)に規定する支出期間は、両政府の関係当局の同意を得て延長することができる。

3(1)　借款は、ケニアの実施機関が調達適格国の供給者又は請負業者に対して行う支払であって、計画の実施に必要な生産物又は役務の購入のために両者の間で締結されることのある契約に基づいて行われるものを対象として使用に供される。ただし、当該購入は、調達適格国において、それらの国で生産される生産物又はそれらの国から供給される役務について行われる。

(2)　(1)に規定する調達適格国の範囲は、両政府の関係当局間で合意される。

(3)　借款の一部は、計画の実施のための適格な現地通貨の需要に充てるために使用することができる。

4　ケニア共和国政府は、3(1)に規定する生産物又は役務がJICAの調達のためのガイドライン（国際競争入札の手続が適用できないか又は適当でない場合を除くほか、従うべき国際競争入札の手続をなかんずく定める。）に従って調達されることを確保する。

5　ケニア共和国政府は、借款に基づいて購入される生産物の海上輸送及び海上保険に関し、海運会社及び海上保険会社の間の公正かつ自由な競争を妨げることのあるいかなる制限を課することも差し控える。

6　3(1)に規定する生産物又は役務の供給に関連してケニア共和国においてその役務が必要とされる日本国民は、作業の遂行のためケニア共和国への入国及び同国における滞在に必要な便宜を与えられる。

7(1)　ケニア共和国政府は、次のものを免除する。

(a)　JICAについて、借款及びそれから生ずる利子に対して又はそれらに関連してケニア共和国において課される全ての財政課徴金及び租税

(b)　供給者又は請負業者として活動する日本国の会社について、借款に基づいて行われる生産物又は役務の供給から生ずる所得に関してケニア共和国において課される全ての財政課徴金及び租税

(c)　供給者又は請負業者として活動する日本国の会社について、計画の実施に必要な自己の資材及び設備の輸入及び再輸出に関してケニア共和国において課される全ての関税及び関連の財政課徴金

(d)　計画の実施に従事する日本国民である被用者について、計画の実施のため供給者又は請負業者として活動する日本国の会社から取得する個人所得に対してケニア共和国において課される全ての財政課徴金及び租税

(2)　ケニア共和国政府は、計画の実施に必要な生産物又は役務に関してケニア共和国において課される全ての付加価値税を負担する。

8　ケニア共和国政府は、次のことのために必要な措置をとる。

(a)　借款が適正に、かつ、専ら計画のために使用されることを確保すること。

(b)　借款に基づく施設の建設及び当該施設の使用に当たり、計画の実施に従事する者及びケニア共和国の一般公衆の安全を確保し、及び維持すること。

(c)　借款に基づいて建設される施設がこの了解に定める目的のために適正に、かつ、効果的に維持され、及び使用されることを確保すること。

9　ケニア共和国政府は、要請に応じ、日本国政府及びJICAに対し、次のものを提供する。

(a)　計画の実施の進捗状況についての情報及び資料

(b)　計画に関連するその他の情報

10　両政府は、この了解から、又はそれに関連して生ずることのあるいかなる事項についても相互に協議する。

本使は、更に、この書簡及び前記の了解をケニア共和国政府に代わって確認される閣下の返簡が両政府間の合意を構成し、その合意が閣下の返簡の日付の日に効力を生ずるものとすることを提案する光栄を有します。

本使は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かって敬意を表します。

二千十六年三月九日にナイロビで

ケニア共和国駐在

日本国特命全権大使　寺田達志

ケニア共和国財務長官

ヘンリー・K・ロティッチ閣下

（ケニア側書簡）

（訳文）

書簡をもって啓上いたします。本長官は、本日付けの閣下の次の書簡を受領したことを確認する光栄を有します。

（日本側書簡）

本長官は、更に、前記の了解をケニア共和国政府に代わって確認するとともに、閣下の書簡及びこの返簡が両政府間の合意を構成し、その合意がこの返簡の日付の日に効力を生ずるものとすることに同意する光栄を有します。

本長官は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かって敬意を表します。

二千十六年三月九日にナイロビで

ケニア共和国財務長官

ヘンリー・K・ロティッチ

ケニア共和国駐在

日本国特命全権大使　寺田達志閣下

○外務省告示第百七号

平成二十八年三月十一日にニューデリーで、円借款の供与に関する取極の修正に関する次の書簡の交換がインド政府との間に行われた。

平成二十八年四月五日

外務大臣　岸田　文雄

（インド側書簡）

（訳文）

書簡をもって啓上いたします。本官は、インドの経済の安定及び開発努力を促進するために供与される日本国の借款に関する二千十五年一月十六日付けの交換公文に関し、インド政府の代表者と日本国政府の代表者との間で最近到達した次の了解をインド政府に代わって確認する光栄を有します。

1　前記の交換公文の2(1)(b)を次のように改める。

(b)　年間の利子率は、六箇月の貸出しに適用される適用可能なロンドン銀行間取引金利とする。

2　前記の交換公文の改正された2(1)(b)の次に、次の新たな規定を加える。

(c)　(b)にかかわらず、(b)に規定する利子率が〇・一パーセントよりも低い場合には、利子率は年〇・一パーセントとする。

3　前記の交換公文の2(1)(c)を2(1)(d)に修正する。

本官は、更に、この書簡及び前記の了解を日本国政府に代わって確認される閣下の返簡が両政府間の合意を構成し、その合意が閣下の返簡の日付の日に効力を生ずるものとすることを提案する光栄を有します。